

大賞挑戦者に おくる 撮影のコツと ヒント集

どんなに素晴らしい作品も、写真の写りひとつで審査員への伝わり方が変わります。ここでは背景づくりから照明、アングルまで、審査で不利にならないための撮影テクニックをまとめました。

綺麗に撮れる
テクニックが
盛りだくさんだぞ！



01

撮影場所と背景の作り方

02

照明の工夫とホワイトバランス

03

標本・立体作品の撮り方

04

提出前チェックリスト

1

SET UP YOUR SHOOTING SPACE

まずは撮る場所を作ろう

部屋の中が写りこんだり、背景がごちゃごちゃしていると、作品が見えにくく印象が悪くなります。大きな紙や布で背景を作り、作品をすっきり見せましょう。紙や布がないときは、できるだけシンプルな床や壁の前で撮影します。



白い紙・布でシンプルな背景を作る



小さな作品なら椅子にシーツをかけるだけでもOK

シーツを使うときのコツ：白っぽい布は濃い色の背景になりやすいので、アイロンをかけてシワを伸ばしておくと写りがきれいになります。

平面の作品／立体の作品

- 平面の作品は、床や壁に白い紙や布をはって撮影します。
- 立体の作品は、長い紙や布を壁から床にたらすと背景に継ぎ目ができません。
- 壁にとめるときはテープか画びょうが簡単ですが、壁を汚さないよう注意しましょう。



専門家はこのようなセットを組みます。ハンガーやひもなど、家にあるものでまねしてみましょう。

2

LIGHTING TECHNIQUES

照明の工夫

カメラのストロボは使わない

作品に近い位置でストロボを使うと、反射光で細かいところが見えなくなることがあります。そんなときはストロボを使わず、照明器具を使いましょう。



内蔵ストロボ

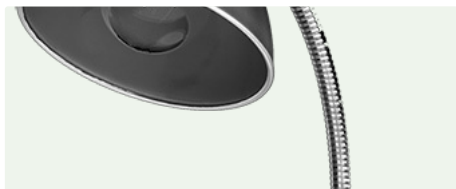


照明器具に置き換え

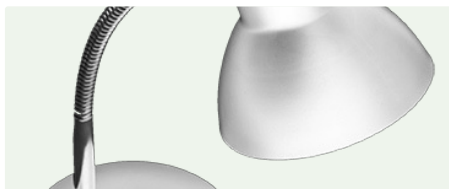
注意：ストロボを使わないと手ブレが起きやすくなります。必ず三脚などでカメラを固定して撮影しましょう。

複数の方向から照明を当ててみよう

一方向からの光だけだと影で作品が見えにくくなります。色々な方向から光を当てて、きれいに見える照明の位置を工夫しましょう。家にある電気スタンドを何本か集めるだけでも十分です。



卓上スタンド：小さな明かりでも近づければ有効



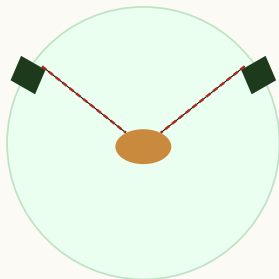
家にある電気スタンドに全員集合してもらいましょう



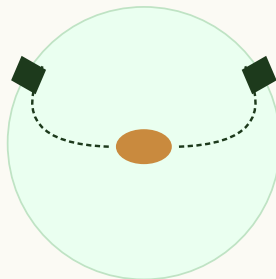
本格的に撮るなら、左右2灯のソフトボックスライトで均一に光を回すのもおすすめです

どの方向から光を当てると綺麗に見えるか

照明器具の位置で写真の印象は大きく変わります。器具の位置だけでなく、光を当てる角度や距離も色々試してみましょう。



強い光を作品に直接当てると、白く飛んで見えにくくなることも



白い紙や壁、天井に当てて反射させると光が柔らかくなる

ホワイトバランス設定：カメラによっては蛍光灯・白熱灯など光の色を補正できる機能があります。取扱説明書を確認して使ってみましょう。

光が強すぎる時の裏ワザ



くしゃくしゃにしたレジ袋をふわっとかぶせると、光の輪郭が少し柔らかくなります

危険！！熱くなる照明器具に袋をかぶせないこと。器具から少し離して、様子を見ながら使いましょう。

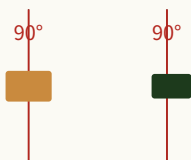
3

SPECIMENS & 3D WORKS

標本・立体作品の撮り方

平面やそれに近い作品はカメラを平行に

標本箱や絵を撮るときは、作品とカメラが平行になるように置くとゆがみが少なくなります。平面の作品全体を撮るときは、カメラと作品を平行にし、ファインダーの中心と作品の中心を合わせるようにしましょう。



作品とカメラ、それぞれの面が正面から見て90度になるよう水平・垂直をそろえると、形が歪まずまっすぐ写ります。

標本箱は必ずふたをとって撮影：ガラスが反射して中が見えないことがあります。額装した絵も同様です。

- 標本を立てると撮りやすいですが、ガムテープやひもなどで**絶対に倒れない**ようにしましょう。
- 立てられないときは床に置き、真上から撮影します。
- 三脚は脚がじゃまになるので、自撮り棒を台に固定するなどして撮ります。

部分のアップも撮りましょう

作品で注目してほしい部分は、全体とは別にアップで撮って見どころをアピールしましょう。特に美術作品は、筆のタッチなど細かいところも審査の対象になります。



標本作品の例



部分アップの例



立体作品の例

4

FINAL CHECKLIST

その他の注意点

1 撮影モードは「オート」でOK

今のデジカメやスマホは、露出やシャッタースピード、感度を自動で選んでくれます。撮影する人は照明やアングルに集中しましょう。

2 解像度は「最高」、ファイルサイズは「最大」で

審査員が拡大して見られるよう、できるだけ解像度の高いデータで応募しましょう。

3 条件を変えてたくさん撮り、あとでセレクト

きれいに撮れたと思ってでも拡大するとブレていることも。向きや照明を変えながら何枚も撮っておきましょう。デジタルならフィルム代もかかりません。

4 似た写真を並べず、自分でしっかりセレクト

似たカットが大量にあると審査の妨げになります。作者の意図と違うものを選ばれてしまう前に、自分で勝負カットを選びましょう。

5 撮る前にカメラの説明書をチェック

普段使わない機能の中に、作品撮影に便利な機能があるかもしれません。どんどん試してみましょう。

6 余裕のあるスケジュールで撮影を

締め切りギリギリの撮影は失敗のもと。時間をかけていねいに撮りましょう。

お問い合わせ

insect-post@nikkonkyo.com

メールのタイトルは「大賞作品撮影 -○○○○○について」としてください。返信に時間がかかることがあるので、なるべく早めにおたずねください。